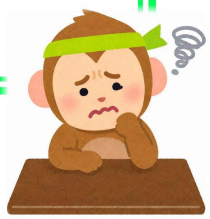
今月のことば　　令和8年（2026）11月　<No.243>

選択 ＝ 捨てる・取る



今月は、少し私自身（住職）のことを書かせてください。

子どものころの夢は、プロ野球選手でした。当然、かないませんでした。NHKに就職し、さまざまな方の人生に触れる仕事にやりがいを見つけた頃、妻と出会い、真光寺を継ぐことになりました。前の仕事を離れる時には、ずいぶん悩みました。まさか自分が僧侶になるとは、思ってもみませんでした。

5年前には大雨の被害で、お寺は大きな岐路に立たされました。悩んだ末に、計画にはなかった新しい納骨堂を建設しました。今も、その納骨堂をどう生かしていくのか、考え続けています。

思えば、自分で選択してきたつもりでも、そこには常に悩みがつきまとい、思い描いていた通りの人生とはいかないものです。そしてこれを読んでおられる多くの方が、逃れようのない出来事に出会い、そのたび悩みながら、難しい選択を重ねてこられたのではないでしょうか。

「普通の人生」など、一つもないのだと思います。数々の選択の先に何が待っているのか、誰にもわかりません。しかし、確かなことが一つだけあります。**私たちは阿弥陀如来の願いによって、お浄土に向かって歩んでいる**ということです。



なぜ、そう言えるのか――。親鸞聖人の師・法然聖人は、阿弥陀如来の願いを「選択本願（せんじゃくほんがん）」と呼び、次のように示されました。

寺や仏像を建てることを、浄土に救われる条件にすれば、貧しい人は望みを絶たれる。賢さを条件にすれば、そうでない人が救いからもれる。戒律をよく守ることを条件にすれば、多くの人がもれてしまう。そこで阿弥陀如来は、条件をすべて捨て、誰もが称えられるお念仏ひとつを、選び取られた。

『選択本願念仏集』法然聖人 著より（住職意訳）

私たちの選択は、何かを選べば何かを捨て、時には誰かを捨てなければなりません。

けれど**阿弥陀如来の選択は、条件を捨てて、人を一人も捨てない選択でした。**私たちはつい、「こんな私では」と自分に条件をつけてしまいますが、その条件こそ、如来が先に捨ててくださったものでした。

これからも私たちは、迷いながら選択を重ねていくでしょう。しかし歩んでいるのは、お浄土で阿弥陀如来と同じさとりをいただく一本の道。親鸞聖人はそれを**「無碍の一道」**と示されました。「無碍（むげ）」とは、さわりがないということ。

私の「さわり（苦悩）」がなくなるのではなく、私の迷いがどれほど深く多くとも、如来の願いのさまたげにはならない、ということです。

お浄土への一本道を、これからもご一緒に聞かせていただきましょう。



慧日山 真光寺